

東京都ローイング協会
薬師寺 朋美 (WR Umpire No.1840)

World Masters Regatta 2025 Banyoles 参加報告

1. はじめに

このたびスペイン・バニョラスで開催されたマスターズレガッタに審判員として参加する貴重な機会をいただきました。多様な国籍や世代の選手たちが水上で一体となりローイングを楽しむ姿に立ち会えたことは、私にとって大きな経験となりました。本派遣を推薦いただきました日本ローイング協会ならびに、日頃よりご理解とご協力を賜っております職場関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

2. 大会概要

本大会は世界最大規模のレガッタであり、2017 年以来過去 2 番目の規模であった。約 3,600 名、51 か国からの参加者によって開催された。競技者の年齢層は 27 歳から 98 歳と幅広く、クラブ単位だけでなく国際的な混成クルーの参加も認められており、パラローイングの選手も参加していた。すべてのレースが決勝形式で行われ、予選や敗者復活戦は設けられなかった。

(1) 大会名：2025 World Rowing Masters Regatta (WRMR)

(2) 開催地：スペイン・バニョラス (Lake Banyoles)

(3) 開催日：2025 年 9 月 10 日～14 日 (5 日間開催)

※1992 年、バルセロナオリンピック開催地

(4) カテゴリー

A: Minimum age: 27 years	H: Average age: 70 years or more
B: Average age: 36 years or more	I: Average age: 75 years or more
C: Average age: 43 years or more	J: Average age: 80 years or more
D: Average age: 50 years or more	K: Average age: 83 years or more
E: Average age: 55 years or more	L: Average age: 86 years or more
F: Average age: 60 years or more	M: Average age: 89 years or more
G: Average age: 65 years or more	

※Age categories do not apply to coxswains of Masters crews

(5) 種目

Men :1X, 2X, 2-, 4+, 4-, 4X, 8+, PR3 2X

Women:1X, 2X, 2-, 4+, 4-, 4X, 8+, PR3 2X

Mixed :2X, 4X, 8+, PR3 2X

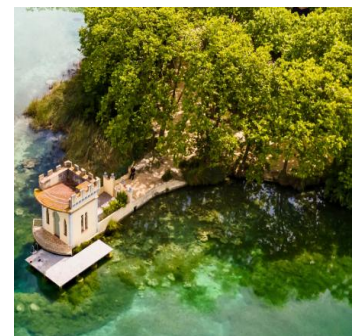


写真 1 バニョラス湖の風景

3. バニョラス湖と環境配慮

バニョラス湖はスペイン・カタルーニャ地方に位置する自然湖で、カルスト地形由来の湧水で満たされ、水の透明度と清らかさで有名である。この美しさから日本のミネラルウォーター「い・ろ・は・す」のCMにも起用されている。大会運営ではこの湖の環境を守るために厳しい配慮がなされていた。再生不可能なプラスチック製品の使用は禁止され、すべての参加者にリユース可能なボトルの利用が求められた。また、外来種の侵入や水質汚染を防ぐ目的で、すべてのボートと機材の消毒が義務化され、消毒済みを示すステッカーの提示が必須とされた。

Boat disinfection

One of the main threats to the Estany de Banyoles Protected Natural Area is the entry of invasive exotic species, which can seriously alter our ecosystem. To combat this threat, it is essential to follow a boat and equipment disinfection protocol as shown below. These measures include cleaning boats, oars and equipment before coming into contact with the lake water.

*You will find all the updated information on the website Wrmr2025.com/en/regatta.html



写真2 艇の消毒作業中



写真3 消毒済シール (CC で確認する)

4. 主な運営体制

<IT0 メンバー>

World Rowing Masters Commission: 国際審判委員会および運営方針の策定。

Banyoles Organizing Committee: 現地運営

Jury: 国際審判員(IT0)/国内審判員(NT0): 大会運営を支え、主審やスタート・ゴールに配置された。

President of the Jury Angela Alonso Fernandez (ESP) 1439

President of the Jury Daniel Gutierrez Praena (ESP) 1729

International Jury Andrew Guerin (AUS) 1251

International Jury Lourdes Garcia Negro (ESP) 1512

International Jury Patrick Rombaut (BEL) 1085

International Jury Anders Birk (DEN) 1064

International Jury William Donegan (CAN) 1225

International Jury Monica Beatriz De La Maza Leniz (POL) 1545

International Jury Martine Dimouawa (CMR) 1520

International Jury Miguel Castro Gomez (CUB) 1137

International Jury Robert Väli (EST) 1599

International Jury Eleanor Forshaw (FRA) 1672

International Jury Adrian Champion (GBR) 1796

International Jury Georg Gruetzner (GRE) 1202

International Jury Tomomi Yakushiji (JPN) 1840

International Jury Christiaan Arendzen (NED) 1833

International Jury Lauren Farnden (NZL) 1850

International Jury José Antonio Tord (PER) 1779

International Jury Monika Kuczma (CHI) 1545

International Jury Ismael Herrero Iii (PUR) 1269

International Jury Wayne Davidow (RSA) 1646

International Jury Nuno Botelho (POR) 1351

International Jury Simon Malej (SLO) 1802

International Jury Ruzica Karajovic - Ibrocic (SRB) 1482

International Jury Christa Heer (SUI) 1821

International Jury Melissa Chun (USA) 1809



写真 4 ITO メンバー集合写真

5. スケジュール

大会のスケジュールやポジションのシフト、重要な連絡は朝の JuryMeeting の他、WhatAPP のアプリ上で情報共有がなされた。

この時期のスペインは、日本に比べて日の出・日没が遅く、レーススケジュールは、早朝 8:00～19:00 迄、8 クルー、3 分間隔の超ハードスケジュールであった。（初日:105 レース 2 日目:172 レース 3 日目:185 レース、4 日目:197 レース、最終日:104 レース） PreStart が、次のレース艇を呼び込み、そのままスタートエリアに誘導することで、3 分間隔でもオンタイムのレース運営が可能であった。スタートもフィニッシュも 3 分間隔は、本当に慌ただしく会話をする余裕もないくらいあっという間にシフトの時間が過ぎていった。審判も終日従事することは厳しいため、休憩をはさみながら午前中の前半・後半、午後の前半・後半に分れて対応した。1 日目、2 日目は休憩中もセミナーがあり、昼食をとる時間がなく、昼食抜きという日もあった。

3 日目はあいにくの雷雨で 8 時スタートのレーススケジュールが 2 時間遅れでスタートした。予定のレースはキャンセルすることなくすべて実施し、最終レースが終わったのは 20 時頃であった。そのため恒例の集合写真は 20 時過ぎとなり、せっかくのバニョラスの風景は映らず暗闇での集合写真となってしまった。

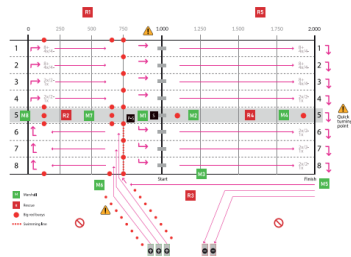
2025 WORLD ROWING MASTERS REGATTA BANYOLES				
19-14 September 2025				
RACE SCHEDULE as of 12 January 2025				
WEDNESDAY	THURSDAY	FRIDAY	SATURDAY	SUNDAY
101 E 4+	201 WC 8+	301 I 1x	401 D 4x	501 MIX D 2x
102 WF 4-	202 C 4-	302 WC 2-	402 WC 4-	502 MIX G 4x
103 H 2x	203 WF 1x	303 A 2x	403 G 4+	503 MIX B 8+
104 WA 1x	204 F 2x	304 WF 4x	404 J 1x	504 MIX E 2x
105 C 2-	205 WI-M 1x	305 D 4+	405 WF 2x	505 MIX H-M 4x
106 WD 2x	206 WA 4+	306 WI-M 2x	406 WH-M 4x	506 MIX C 8+
107 F 1x	207 I 4x	307 G 2-	407 B 1x	507 MIX F 2x
108 WG-M 2-	208 A 2-	308 WA 4-	408 E 8+	508 MIX A 4x
109 I-M 8+	209 WD 4-	309 B 4x	409 WA 2-	509 MIX D 8+
110 WB 4x	210 D 1x	310 WD 8+	410 H 4x	510 MIX G 2x
111 A 1x	211 WG 4x	311 E 1x	411 C 2x	511 MIX PRE 2x
112 WE 8+	212 G 8+	312 WPRE 2x	412 PRE 2x	512 MIX B 4x
113 D 2x	213 WB 2-	313 H 4-	413 WD 2-	513 MIX E 8+
114 G 4-	214 I-M 4+	314 WG 2x	414 F 4+	514 MIX H-M 2x
115 WC 4+	215 B 2x	315 C 8+	415 WG 1x	515 MIX C 4x
116 B 8+	216 WE 4x	316 WB 4+	416 I-M 4-	516 MIX F 8+
	217 E 2-	317 F 4x	417 WB 8+	517 MIX A 2x
	218 H 1x	318 WE 2x	418 A 4x	518 MIX D 4x
	219 WH 2x	319 I-M 2-	419 WE 1x	519 MIX G 8+
	220 C 4x	320 WH 1x	420 D 4-	520 MIX B 2x
	221 F 4-	321 A 4+	421 WC 2x	521 MIX E 4x
	222 WC 1x	322 D 2-	422 G 1x	522 MIX H-M 4x
	223 WF 4+	323 WC 4x	423 WF 8+	523 MIX C 2x
	224 A 4-	324 G 2x	424 I 2x	524 MIX F 4x
	225 WA 2x	325 WF 2-	425 WA 4x	525 MIX A 8+
	226 D 8+	326 J-M 4x	426 B 2-	
	227 WD 4+	327 B 4-	427 E 2x	
	228 G 4x	328 WA 8+	428 WD 4x	
	229 J-M 2x	329 WD 1x	429 WG-M 4-	
	230 WB 4-	330 E 4-	430 H 8+	
	231 B 4+	331 WG-M 4+	431 C 4+	
	232 WE 2-	332 WB 2x	432 WB 1x	
	233 E 4x	333 H 4+	433 F 2-	
	234 H 2-	334 C 1x	434 WE 4+	
	235 WG-M 8+	335 WE 4-	435 K-M 1x	
		336 F 8+	436 A 8+	

図 1 レーススケジュール



写真 5 セミナー受講中の写真

Traffic Rules Training



Traffic Rules Competition

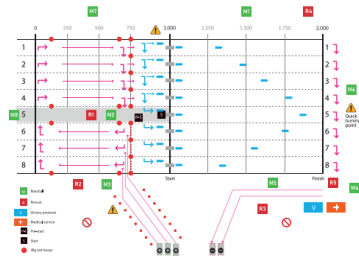


図2 トラフィックルール



図3 コース全体図

6. 大会会場

会場は参加者の自艇やレンタルの艇が大量にあり、これまでに見たことがないような数の艇が会場内に置かれていた。またたくさんのユニフォームショップやグッズを売っているボート関連ショップも出ており、日本では見ないようなショップも数多く出店していた。

キッチンカーもたくさん出ており、3日目、4日目は会場へ音楽隊がきて、全体でダンスをしたりお祭りのような雰囲気であった。参加者の皆さんは、食事やお酒、ショッピングなどレース後も楽しんでいるようであった。



写真6 ヨーロッパ中から集められた艇



写真7 見本市のようなボート関連ショップ



写真8 WRMR ゲート前にて



写真9 フードやドリンクなど楽しめるメイン会場

World Rowing Masters Regatta 2025 Banyoles



Map of the Competition Area



図 4 会場マップ



写真 10 音楽に合わせてダンスをする人々

7. 印象的だった部署の業務

(1) Control Commition (コントロールコミッション) ※出艇監視

クルー数が非常に多く、常に大忙しであった。IDの確認、安全の確認（バウボール、ストレッチャーの紐）、ユニフォームの確認、消毒の確認など業務は多岐にわたるが、配艇はレースの45分前に行われるため、クルーは慌ただしく出艇準備に追われていた。しかしマスターズのクルーの皆さんは常にフレンドリーで親切な方が多く、日本人の私に「こんにちは」や「ありがとう」「日本にいったことがあるよ」など声をかけてくれる方もいて、選手とのコミュニケーションを楽しみながら、業務に従事できた。IT0が3名、NT0が3名の体制であったが、人員は十分とはいえず、忙しさを強く感じる部署であった。



写真 11 HotSpot 栈橋を担当



写真 12 業務に向かうメンバーと

(2) Judge at the Finish (ゴール判定)

3 分間隔でレースが次々と到着するため、非常に忙しい部署であった。着順の確認、白旗の掲揚、マーシャル艇への優勝者連絡を担当した。特に午後の逆光と水面の反射により視認性が悪く、1000m レースの 8+ では艇差がほとんどないままゴールするケースもあり、難易度は極めて高かった。小さなバウナンバーを読み取る作業は最大の難関であった。



写真 13 Responsible at Finish



写真 14 Finish Judge



写真 15 Finish Tower と FinishLine



写真 16 FinishTower 内に三菱電機製の空調装置

⇐こんなところに三菱電機！@フィニッシュ小屋にて

(3) Victory Pontoon (メダル授与)

すべてのレースが決勝であるため、各レースの優勝者へメダルを授与する部署であった。無線やタブレットでフィニッシュの結果を受け取り、クルーと ID を照合し、問題なければメダルを授与した。私の担当時間にはなかったが、ID を忘れてしまったクルーが複数あり、ビクトリーポンツーンでの授与ではなく、大会本部での受け取りになってしまったクルーがあった。日本国内のレースでは陸上で表彰式を行うため、桟橋で直接メダルを渡すのは初めての経験であった。すべてのクルーが晴れやかな笑顔で桟橋に現れ、メダルを受け取っていく姿を見て、自然とこちらも笑顔になる、とても幸福感に満ちた部署であった。



写真 17 メダルを獲得した 2-の選手



写真 18 メダルを獲得した 4×の選手



写真 19 ID をチェックする業務



写真 20 優勝者へ授与されるメダル

(4) Umpire 3

主審はゾーン形式で実施し、3 艇の主審艇で担当した。Umpire1 は 250m 地点、Umpire2 は 500m 地点、Umpire3 はフィニッシュ直前に位置し、抗議の確認や白旗掲揚を担当する役割であった。国内でも主審を務めることは多かったが、抗議の手が上がるのは珍しいことであった。今回、国際大会に参加して初めて選手からの抗議があり、赤旗を掲げた。内容は「レース中に大きな波が発生し、まともに漕げなかった」というものであった。当該レース中、レスキュー艇がフィニッシュ方向からスタート方向へ高速で移動するのを確認しており、その影響で波が生じたことは想像できた。審判長に連絡を入れ最下位クルーであったこと、また救助のために避けられない波であったことを考慮し、白旗を掲げてレース成立とした。しかしその場で十分な説明ができずクルーが不満を残したまま去っていったことから、英語力を含めた説明能力の不足を痛感し、強く反省する経験となった。



写真 21 Umpire2 にてレース追視中



写真 22 ボートドライバーのボランティアの方と

(5) その他

- ・日本の動作号令のような統一した動作がないため、それぞれのやり方（旗の掲揚方法など）で実施していた。特に選手とコンタクトのあるコントロールコミッションなどは統一したほうが良いと思った。（名前を読んで手を上げさせるだけでは、ID 忘れをチェックできない）
- ・レースの DNS、選手変更、バウナンバーの変更など、関係ある部門のみ必要最低限となっており、主審などに連絡がなく、混乱する場面があった。沈した選手が日本人だと近くのスเปน人担当者が言っていたが、出漕表のバウナンバーには USA の表記があり、日本人ではないと思ってしまい別の救助艇に引き上げられたのを確認してその後のケアを十分にできなかった。
- ・レース中の映像をドローン撮影していたが、鳥に攻撃され墜落しそうになっていた。
- ・審判無線が小さな子供と犬の無線と混線し、一時犬の鳴き声と子供の歌声で無線ジャックされて和やかな様子にメンバーの笑いを誘っていた。

8. 特記事項

- ・最大で同時に 140 艇以上が水上に存在する状況となり、交通整理の難しさを痛感した。（マスターズクルーのため接触に気づいても反応するのが遅く衝突してしまっていた。結構な数の艇やオールがダメージを受けていた。）
- ・高齢選手（90 歳代）や肢体不自由・視覚障害・知的障害を持つクルーも複数参加しており、安全面での配慮が強調された。
- ・毎日のように沈するクルーが多数あり、無線には「Rescue ! Rescue ! Rescue !」が飛び交っていた。私自身も 2 クルー救助した。（地元警察の水上スキーやレスキューボートも多数配置）うち一人が日本人選手（シングルスカル）が転覆しレスキューに救助されたが、低体温症のような症状がみられたため念のために現地の医療機関へ搬送された。その際、通訳として呼び出され、日本人選手が安心して競技に参加するための役割も担っていると改めて実感した。

9. 所感

初めての国際大会への参加で緊張していたが、現地主催メンバーや IT0 メンバーに温かく迎え入れていただき現地では困るようなことはなく楽しく過ごすことができた。IT0 メンバーとは 5 日間一緒に生活しながら審判業務を実施したことで、一人ひとりと会話したり、一緒に食事をしたり、初対面でありながら、ボートという共通点から会話が広がり、その人のことや国のことを知ることができ視野の広がる経験ができた。

審判員のみならず、NTO メンバー、ボランティアの方々、出場選手とのチームワークや人と人のつながりの大切さを強く実感した。

また大会会場付近までは自力で集合するのだが、それまでの公共交通機関での移動中も現地のスペイン人の方に親切に切符の買い方や電車やバスの乗り方、また家族を連れての移動であったが、小さな息子に席を譲ってくれたり、優先レーンへ誘導してくれたり、多くの方の親切さが身に染みて言語の壁はあれど、親切にする気持ちは万国共通だと感じた。

本大会については、年齢や国籍を超えた多様な選手が参加する特異な場であり、審判にとっても柔軟性と迅速な判断力が試される場であった。特に安全確保と、選手が楽しくレースに参加できることが最重要であり、国際的な環境で求められる言語運用能力や説明力の不足を痛感した。幸せを感じる瞬間もあれば、課題を突きつけられる場面もあり、自身の成長に大きく寄与した大会であった。



写真 23 夜明けの Judge at the Start



写真 24 バルセロナ空港にて三菱電機の広告

↑こんなところに三菱電機！

会場最寄りのジローナ駅にも同じ広告があり、縁を感じた。



写真 25 ITO&NTO 集合写真